

おかげ
さまで

日之影新聞

第
10
号

一期一会

ごちそう、



いい旅には
ごちそうがある

日之影のまちを訪れた旅人であるあなたが食事にありつこうというとき、選択肢はなかなか限られてくると予想されます。人口4000人に満たないこのまちでは外食できる食事処の数は多くありません。お屋であれば役場近くの「道の駅青雲橋」「しまのや食堂」はじめ、候補として挙げられる店の数は片手で数えるくらいでしょう。晩ご飯であれば「左近」「ひろせや」「くりの木」など居酒屋が追加されるくらいでしょう。そもそもナイのだから、スマホで「ランチ」を検索しても助けにはなりません。しかし、このような限られた条件のなかに身を置いて

こそ、旅人であるあなたは自分の嗅覚を研ぎ澄ませることでしよう。これだけの美しい自然に囲まれたこのまちで、おいしいものに出会えないワケがない。澄み切った美しい川があるのにおいしい魚に出会えないハズはない。柚子や栗や金柑といった山々の豊かな恵みを味わえないなんてことがあっていいハズはない、と。そんな考えを抱くあなたの直感を信じましょう。「おいしい日之影」は必ずしも見つけやすいところにあるとは限りません。日之影のごちそうに出会うために、あなたはしっかりと目を凝らさなければなりません。さあ、ごちそうは、どこに?!

ごちそう請負人・ さくら会の女性たち

もしあなたが日之影を訪れたその日、偶然にもまちのどこかでなにかのイベントが行われているなら、そこに向かってみるのはいい選択のひとつかもしれません。溪谷まつりとか、集落の行事とか、日之影には大小いろいろなイベントがあります。そこには地元のおいしいものが準備されている可能性があります。それらほとんどすべては手づくりのものでしょう。筆者がかつて見に行った大人神楽の会場でも、集落のおか

あさんたちが手づくりしたごはんやイノシシ汁をいただくことができました。ローカル感に満ちたこうした郷土の食卓こそ、まさに旅で出会える最高のものにちがいありません。さて、そんなふうに、イベント会場においてくれるのはなぜなのでしょう。それは、当たり前ですが、そこにおいしいものを用意してあなたが来るのを待っていてくれる人がいるからです。今回ご紹介する「興地さくら会」さんは、まさ



にそうしたごちそうづくりを通して多くの人のお腹と心を満たす活動をしている女性グループです。まちでひらかれる様々なイベントで供されるごちそうづくりを、営利ではなく、いわばみんなの喜びのために15年以上にも渡ってつづけてきました。行楽日和の春の日のイベントであれば、タラの芽の天ぷらや桜の花びらの寒天など春らしいおいしさのおかずを詰め込んだお弁当にしたり。深まりゆく秋の日のイベントなら、日之影産の栗で炊き上げられたふつくらモチモチの栗ご飯をついたり。地元の野菜やしいたけをふんだんに使ったお煮しめをつくったり。季節季節の味わいを手づくりしては多くの人に届けてきたのです。季節の旬の地元の食材でつくられる、おかあさんたちの手づくりの、飾ることのない、本当のおいしさがここにありました。

写真：この日、さくら会の皆さんは、秋のごちそうづくりの真っ最中。おいしい湯気が立ち上るなか、栗おこわをせいろで蒸しあげていました。





「ごちそう、真剣勝負！」

「さくら会」による「ごちそうづく」の現場は真剣勝負です。それぞれに家族の協力をもらいながら、夫や子供の世話だったり親の介護だったりと家庭の仕事をこなしつつ調理場に集っては、イベント当日の限られた時間のなかでテキパキと頑張ります。メンバーは全部で6人。この日は都合によりひとりがお休み。それぞれの事情を尊重しながら協力しています。それぞれに得意とする料理があります。おこわはせいで蒸して炊き上げます。手間がかかりますしコツも必要ですが、お赤飯も栗ご飯もふっくらして最高です。その季節やその日の気温によって味つけも調節しま

す。暑い日はみんな汗をかくので、塩をグラム単位で調整し塩分を強めにします。赤飯づくりでは小豆の茹で汁をどのタイミングで何回かけてやるかも決まっています。おいしさの方程式がたくさんあるのです。この日の出来上がりは、栗おこわ、ゆで卵のお吸い物、お煮しめ、お漬物、栗きんとん、よもぎだんご、紫いものだんご、甘納豆のお餅です。さあ、たくさん召し上がれ、と、さくら会のみなさんが笑顔で盛り付けてくださいました。ああ！求めていたものはここにありました。手づくりのごちそうに出会えるこの幸せ、どうかあなたにも訪れますように。



まろちゃん

ひろみさん

ちえちゃん

あいこん

かずこさん

※この日まろちゃんはお休みでした

写真上…地元の素材もたくさん入ったお煮しめもつくりました。この日のごちそうも、バッチリおいしそう！な仕上がりにです。
写真右…この日集まってくれたさくら会のみなさん。いい笑顔がありがとう！

使える かなこの 日之影方言教室



「子ができた」

題名見て、たまげたのがの。私に子が出来たっちゃんねとばい！私の後輩に子が出来たとよ。仲ん良い4人でグループプラインをしちよるっちゃけんどん、ある晩「陣痛が始まりました」と、グループプラインでの一報！そりからが大変よ。外野の3人で「予定日より早え〜が、世話ねえどかい」「普通分娩じゃろかい？帝王切開じゃろかい？」「予定日より早え〜き、何かあったっちゃんねどかい」と、世話のさんとよ。無事、元氣な子が産まれました」の報告に、皆で喜んだもんじゃった〜(ここだけん話「初産じゃき、出来るた

明日ばいねー」と思っち飲んで寝ちよったき、LINEに気付いたつは明けん日じゃったちゃんけんどんね〜)。

3人で病院にお祝いにいったっちゃんけんどん、ま〜出来た子の、えらしいこつちゃ〜。手やら足やら小もうしちよって、ひ弱え声で泣くとよ。うだいてみると軽してね〜。おじいごつあつたわ〜。こん前、職場に子を連れちよるちよつたわ〜。ふてえなつちよつたがね。えらしい顔を見てっちゃんけんどん、私がうだく時は、目をつむつちよるとよ〜。ちい〜と、せついてんおすみやせん！。てにゃわんき、次来た時に、おすじよるとを見せちよらお〜。大きいなるとが楽しみじゃん。

(訳)

題名を見て、びっくりしましたか？私に子供が出来たのではないですよ。私の子供に子供が出来ました。仲の良い4人でグループプラインをしているんですが、ある夜「陣痛が始まりました」と、グループプラインでの一報！それからが大変です。外野の3人で「予定日より早いね。大丈夫かな？」「普通分娩かな？帝王切開かな？」「予定日より早いね。何かあったのかな？」と心配なのです。無事、元氣な子が産まれました」の報告に、皆で喜びました(ここだけの話「初産だから産まれるのは明日かな」と思っつて、晩酌して寝ましたので、LINEに気付いたのは次の日の朝だったのですけどね)。

3人で病院にお祝いにいきましました。産まれた子供の可愛いこと。手も足も小さくて、か細い声で泣くのです。抱いてみると軽くて怖かったです。先日、職場に子供を連れてきました。大きくなっていましたよ。可愛い顔を見たいのですが、私が抱く時は目を開けていないのです。少し触ってみるのですが、起きません。しょうがないので、次に来た時に起きている顔を見せてもらいます。成長が楽しみですよ。

活動報告 地域おこし協力隊が行く！

日之影町地域おこし協力隊の益崎です。私は2018年の5月から日之影町に赴任して、もうすぐ1年が経ちます。出身は宮崎市ですが、同じ宮崎でも見える景色がまったく違い、新鮮な毎日です。

普段は日之影町の特産品開発などに従事しています。着任してすぐ、特産品開発を行っている「旬果工房てらす」の岡田原史さんとご縁を頂きました。岡田さんは「緑のふるさと協力隊」を通して移住された方です。仕入から加工、販売までのあらゆる業務をすべて1人で行いながら、日之影産の加工品を手掛けています。

いつも関わりながら思うことは、常に日之影の未来のために、どうすれば良いのかを考えている方だということです。そして、それを実行して行く行動力があり、直に学ばせて頂いています。また、どこの集落に行っても慕われており、住民の方々の意見を取り入れ、加工セミナーを開催しています。今後は、日之影町全体の集落同士で、連携が取れるような仕組みを作る必要があるそうです。私も色々な刺激を頂きながら、日之影町の発展に関わってまいります。



日之影取材日記

「11月9日 興地さくら会加工場にて」



この日取材スタッフ一同は、いつにも増して張り切って現場に向かいました。お察しの通り、ごちそうが待っているからです！私は一週間この日のために仕事を頑張ってきました！私たちが到着した

頃には、すでに「さくら会」のみなさんが準備に取りかかっています、取材が進むにつれて加工場の中は餅米が蒸される匂いや煮しめの出汁の香りでたまらなく幸せな空間になりました。「料理には人柄が表れる」と何かで聞いたことがあります、さくら会の料理はとて優しい味がします。季節や気候に応じて味付けを変えているこだわりを聞けば納得です。食べる人のことを一番に考えた優しさが美味しさの秘訣なんじゃないかなと思います。取材スタッフの皆さんもお腹いっぱいお土産もいただいて笑顔で帰って行きました。日之影町役場・地域振興課 佐藤将仁

今月のおかげさま



おかげさまで、日之影が盛り上がっています！

日之影で林業の仕事に就いて7年になります。仕事の傍ら、林研グループや商工会青年部に所属してまちづくりの活動にも取り組んでいます。そして今回、3月17日に日之影の自然や魅力的な活動をもっと知ってもらうため、町民主体で「ヒノカフェフェス」を開催することになりました。成功させることが出来るよ、みんな頑張ります！

りゅうや(31さい)



おかげさまで、日之影。

発行：日之影町〒882-0402 宮崎県西臼杵郡日之影町大字岩井川3398番地1 / 09952187-3900(代表) 企画：株式会社オスマビアール 編集：菅原良美(雑誌編集部) / アートディレクション & 写真：小坂橋基希(akaon) / デザイン：難波知子(akaon) / 取材：文：空豆みきだ(akaon) / 禁：無断転載 | @hinagata. All Rights Reserved.